

# 基本理念は「景観そだて」

## 総務常任委員会で「景観計画」案を所管事務調査

去る10日に行われた市議会総務常任委員会は、所管事務調査として「上越市景観計画案」を審議しました。

この案によると、市の景観づくりの目標を「自然と風土が織りなす上質な美しさが実感できるまち」としています。

そして、市民が自ら景観づくりの取り組みに参加し、大切にしたい景観を発見し、実践・検証するという、これまでも推進してきた「景観そだて」の考えを基本理念とするというものです。

また、旧町当時から住民による積極的な取り組みが行われてきた安塚区を「景観作り重点区域」とし、建築などの際には届

出を義務づけるという計画です。

それ以外の全市を景観計画区域としますが、一定の規模以下の行為は規制の対象とはしません。審議では、この説明に

対し、寺町の寺院群や、仲町・大町などの雁木の保存に関する行政の対応が遅れているのではないかと、もっと積極的に取り組むべきだという指摘がありました。

10日に行われた各派代表者会議では、会派に関する規定などについて話し合われました。

前回までの話合いで、「一人では会派とは認めない」という意見が多数であったとされ、その点を規定案に明文化するとともに、代表者会議へはオブザーバー参加のような形にすることが盛り込

また、そのことと関連して、これまで慣例として会派の代表が行ってきた総括質疑や、政務調査費のうちの会派への支給分については認めないという意見が多数の会派から出されました。

## 一人会派認めず

## 質疑・政務調査費支給も制限する意見が多数



# 観桜会、今年は120万人?

4月3日から始まった高田城100万人観桜会は、開花宣言から天候にも恵まれ、すっきりした晴天のもと、多くの市民や観光客を楽しませました。

特に11日・12日の土日は桜も満開となり、多くの人出でにぎわいました。

今年は目標を超え、120万人の観光客が訪れるのではないかと予想されています。

まちの活性化には観光もだいじ。県内外からの多くの人に、「高田の桜」を愛でてもらいたいものです。

しかし、もっとだいじなことは、一時的な打ち上げ花火に終わらず、通年にわたって多くの人を訪れるようになることと、観光客だけでなく、上越に住む市民全体が心地よく住めるまちづくりの一つとしての観光であることです。

訪れた人も、ここに住む人も、だれもが上越の風土を楽しみ、慈しむことができるまち、そんなまちにぜひしたいものです。



橋爪団長の代理で出席した平良木議員は、「議会の活性化が目的のはずだが、活性化は民主主義を発展させることが基本。少数意見を封じたり、不利益を招いたりすることになってはおかしい」と指摘しました。



## 日本共産党上越市議員団ニュース

No.178 2009年4月19日

- |     |       |          |          |
|-----|-------|----------|----------|
| 連絡先 | 橋爪 法一 | 548-3628 | (吉川区代石)  |
|     | 樋口 良子 | 544-6802 | (中門前3)   |
|     | 上野 公悦 | 530-2203 | (頸城区中柳町) |
|     | 平良木哲也 | 525-9096 | (上中田)    |

